郷土こうなあ

アオサギ
コウノトリ目サギ科
全長約九三cm

日本で最も大きいサギ。川、湖沼、水田などで、魚やカエル等を食べる。胴体は淡い青灰色だが、「アオサギ」のアオは古語で灰色のことを指していて、それほど青くは無い。中央公園で一匹見たことがある。

(うえ)

今号から新聞作りの仲間になった新入りさんの紹介

その1・メガネっ子。(本人はコンタクトにしたいらしい)
その2・書道を習っていて字が上手い。
その3・家庭科部だけどちょっと手芸が苦手。でも最近ちょっと上手くなってきた。(よく心をリセットする)
その4・お笑い芸人が好きだったりする。(マヤマヤと気が合いそうだ)

~そしてこれが重大にして重要~
その5・隠しているが「アイシールド21」が好き。(特に蛭魔妖一が好き)

イラスト
出版社の許諾を得られませんでしたので、削除します

心理テスト「ワンちゃんの選択」のこたえ

① の方は、とてもセッカチさんでゆとりがなく、常にストレスに追いかけ回されているはずです。もう少し余裕を持つと良いでしょう。

② の方は、ほぼ①と同じですが、一応相手を意識して考慮する癖がついている様です。

③ の方は、出世は出来ませんがとても人から好かれるタイプです。与えられた仕事は真面目にこなします。

④ の方は、一応チャレンジはするのですが、あきらめてしまうタイプ。あとひとふん張りしてみる事をオススメします。

⑤ の方は、人に頼ってしまう癖があります。もう少し自分の力を信じて、ささいな事でも独力でなしとげる様になさってみて下さい。

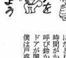
心理テスト「めざまし時計~」のこたえ

(水)

aを選んだあなた
　それほどガンコじゃなさそうなタイプ。妥協したほうがいいな、謝ったほうがいいな、と思えばすぐに方向転換できる人でしょう。

bを選んだあなた
　ふだんはそうでもないけど、自分が大切にしていることにはかなりガンコ。まわりが何を言っても、テコでも動かない面あり。

cを選んだあなた
　かなりガンコで、決して自分の意見を曲げないタイプ。それで引っ込みがつかなくなることも。ときには素直になることも大切。



小説

「満員電車」　第三回

連

　その日から数ヶ月たち彼女のおかげもあってクラスに馴染めてきた頃、彼女は学校を休み始めた。少し風邪をこじらしているだけだと担任の先生は言っていたが胸騒ぎがした。
　いつもの満員電車も、いつもの通学路も、いつものクラスも、いつのも授業も全てにおいて憂鬱になっていった。まるで何かを感じる神経が機能していないような感覚に覆われていた。自分だけ時間がゆっくり動いているようで一日一日がとても長く感じられた。
　次の休日に彼女の見舞いへ行った。行くか行かないかで一時間は考え込んでいただろう。家は大きな二階建ての新築っぽい家だった。どう見ても築十五年のマンションに住んでいる自分とは住む世界が違う人の家だった。
　家の正面にある呼び鈴の前までたどり着いた。呼び鈴はカメラも付いているようで押すだけなのに心臓の音が大きくなってきた。色々な不安等がどんどん込みあがってきた。ついに呼び鈴を押した。ここにたどり着くにはたくさんの時間がかかった。少しすると呼び鈴からでなく、いきなりドアが開いた。突然のことで僕は戸惑いが隠せなかった。
（続）

「亜佐美」　第三回

　亜佐美はその後、自分の事も話してくれた。
　体育が好きで、算数が嫌いなこと。オムライスが好物で、犬が苦手なこと。私と同じ一人っ子で、妹を欲しがっていること。私も北海道にいた時や、家族の事を話した。今まで他人には話したいけど話せなかった色々な出来事を、亜佐美には話せた。日が暮れるまで、私たちは笑った。
「京子ちゃんは大丈夫」
　病室を出る時、ふと思い出したように言った。
「…何で?」
　急に言われたのでビックリしたのもあるが、これ位しか返す言葉が思いつかない。亜佐美は振り向くと、ちょっとだけ考えてから口を開いた。
「京子ちゃんには、京子ちゃんを見守ってくれる人がいっぱいいるでしょう?」
「え?」
　そんな事、考えたこと無かった。
「例えば、お父さんやお母さん。一番身近だし、いつも京子ちゃんを心配してくれる。でも私にはそういう人がいない。お年よりのおばあちゃんだけ。どんなに『妹が欲しい』って願ったって、どっちもいないから作りようがないし…」
　『作りようがない』の部分で少し笑った。
「だからもっと肩の力を抜いてもいいんじゃないかな。」
　その目は、しっかりと私の目を見ていた。多分、亜佐美はこのことを言いたかったのだろう。それは私の心のぽっかりと開いた所に、少し何か暖かいものが埋まった瞬間だった。
（続）

「神様のアシアト」　第三回

ちょめりい

「あいかわらずねむそうだねぇ。」
　えへへと笑いながら杏奈はグイッと身をのりだしてきた。
「それだけですか?」
「『それだけ?』ってそっけないなぁ。やんなっちゃうよね、明後日で夏休みなのに授業なんてさ。みんな聞いてないし。あっ、杉田、ゲームやってる!あんな騒いでたら先生に没収されちゃうのに。まぁしょうがないかつまんないしね」
　とすごい勢いで話はじめた。杏奈は昔からこうなのだ。一度しゃべりだすと、とまらなくなり適当に相づちをうっていると
「ちょっと、しのちゃん!ちゃんと聞いてるっ?」
　と言ってまたしゃべりだす。
　いつものように「はい、はい」と言っていること十五分。授業もあと五分で終わりというところで、話のネタがつきてきたのか杏奈の話すスピードが遅くなってきた。すると「あっ」と小さな声をあげると
「ねえ知ってる?」
　と言って復活したように、またすごい勢いで話し始めた。
「お母さんが電話で話してるの聞いたんだけどね、昨日の夜、熊が出たんだって!それでね、あのでっかい木の家あるでしょ?えっとなんだっけ名前…」
「上野…。」
「そう!上野さん!そこのおじいさんが歩いてたら道の真ん中で、でっかい熊がいたんだって」
（続）

編集後記

心理テストはいかがだったでしょうか?次回も続けるかまだわかりませんが楽しんでいただけたら嬉しいです。

新年明けましたね。今年ものんびりと時には必死に新聞を書いていこうと思います。(うえ)

今回初めて参加させてもらいました。パソコンをうつのがとても大変でした。次回もよろしくお願いします。(水)

今回紹介した本は私のお気に入りなので読んでもらえたら嬉しいです。2007年も「己元参新聞」をよろしくお願いします!

新年あけてしまいました!。今回は小説長く書きました!!でも時間かけまくりました。冬休みが終ります(悲)

今回は6コ目で4コマも最初にもどり絵も変わりました~!自分を高りをあとすこして、よあるところまできましたが、これからもがんばりますおうえんよろしくです。

少し遅くなりましたがあけましておめでとうございます。今回もうまく出来たと思います。次回も見て下さい。連